

紙の科学的分析とヨーロッパの紙の歴史の研究

19世紀の終わりに、ユリウス・ウィーズナー（Julius Wiesner）によるアラブとヨーロッパそして中央アジアの紙の顕微鏡分析は紙の歴史研究にとって重要な、繊維材料と製紙技術との実データを得ることとなった。Filigranology***（新しい紙の歴史の科学的研究の方法）が同じころにアウレリオ&アウグストゾング（Aurelio & Augusto Zonghi）、チャールズ・モイス・ブリケット（Charles Moïse Briquet）（いずれも早くからWatermarkに着目しそのカタログ化を行った）はWatermarkのある紙を研究し、紙の製造年代と製造場所と記録する研究が始まった。しかし、紙はいろいろの形に切り取られるので、Watermarkは必ずしもすべての手稿、書物、印刷物、書画に見つかるわけではない。これらの紙も実は同様に研究されなければならない。これらの中にある、金属の簾の罫線（chain line）、簾の目（laid line）などを、登録されているWatermarkをもつ紙の製造年代・場所の記録と照合すれば、紙の技術、用いられた繊維材料など紙の歴史研究に重要な情報を持つものが見いだされるはずである。（翻訳：江南和幸）

***訳者注：Filigranology 聞きなれない用語であるが、watermark用の金属針金による型を、フランス語のfiligree（金線・銀線による微細な飾り）を模して同じfiligreeを使ったことから、Watermark研究を、この言葉で統一した造語と思われる。

講習会

料紙の質と典籍の位相—中国及び日本の写本・版本を例として

石塚 晴通

（東洋文庫研究員・北海道大学名誉教授）

典籍の料紙は、コディコロジー（Codicology 文理融合型総合典籍学）の重要な要素である。高精細デジタル顕微鏡による料紙の分析から其の典籍の位相が見極められることを、中国・日本の写本・版本を例として述べる。

1. 中国初唐宮廷写経（公的写本）

特製の生漉の大麻紙、溜漉。史上最も精製された料紙の一、簾目約11本/1cm。

cf. [画像1] 京博蔵守屋本『妙法蓮華経』巻三 675写

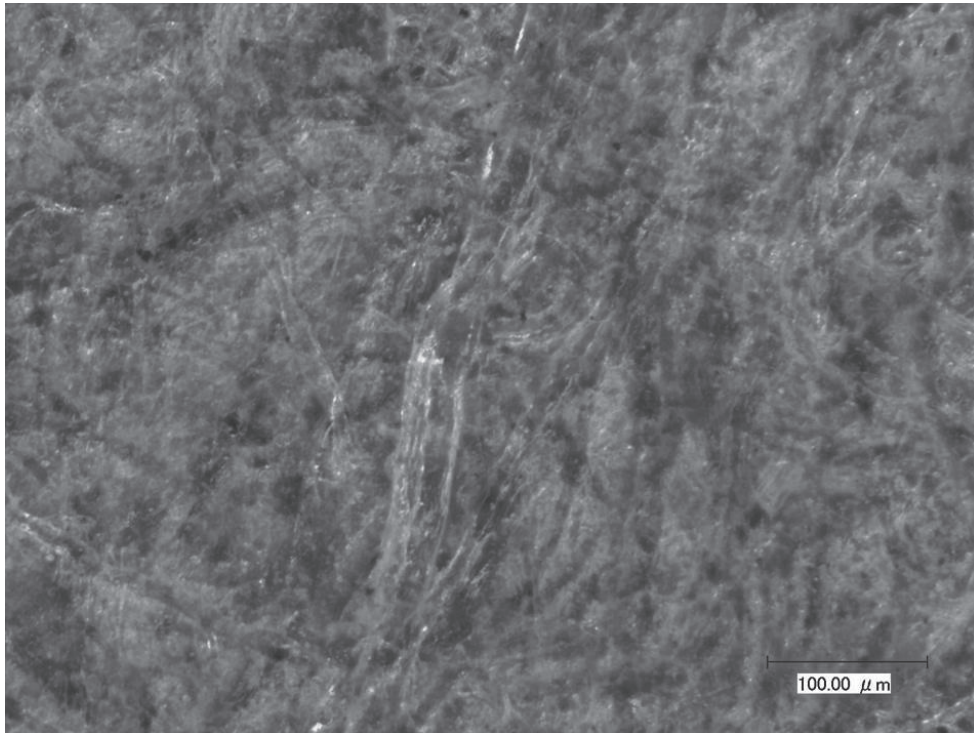
670年代に長安の宮廷で書写された一連の初唐宮廷写経（妙法蓮華経・金剛般若経）は漢字の楷書体の完成相・楷書の初唐標準字体を具現している（字体の異体率＝異体字数／全用例字数－孤用例字数×100が1%を超すことはない—HNG <http://www.chise.org/hng-ids-find/> 参照〈宮廷守屋〉異体率0.81%）。1行17字1紙31行の書式が厳格。本文の正確度が高い。伝来上、訓点が加点されることは殆ど無い。

cf. [画像2] 東洋文庫蔵国宝『毛詩』初唐写

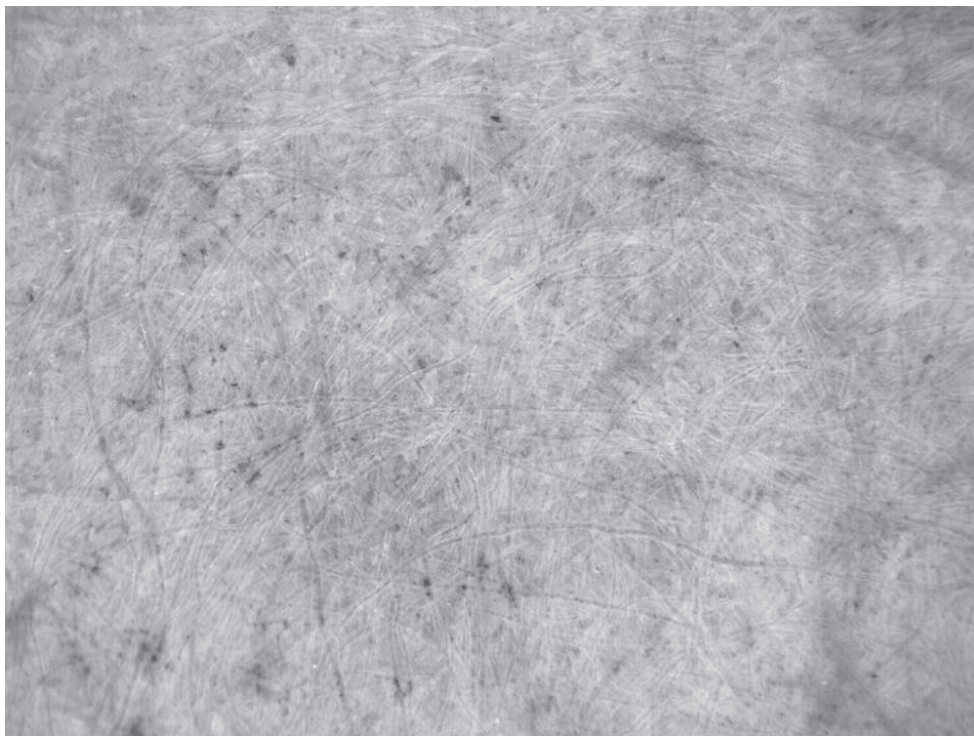
構（梶）紙（*Broussonetia papyrifera*）、溜漉。唐代の普通写本の料紙は構（梶）紙、初唐宮廷写経と同時期書写の私的写本S. 2577妙法蓮華経巻八の料紙は構（梶）紙で1行17字1紙28行・異体率2.03%・朱訓点（句読、破音）詳密。

cf. [画像3] 東洋文庫蔵国宝『文選集註』平安中後期写

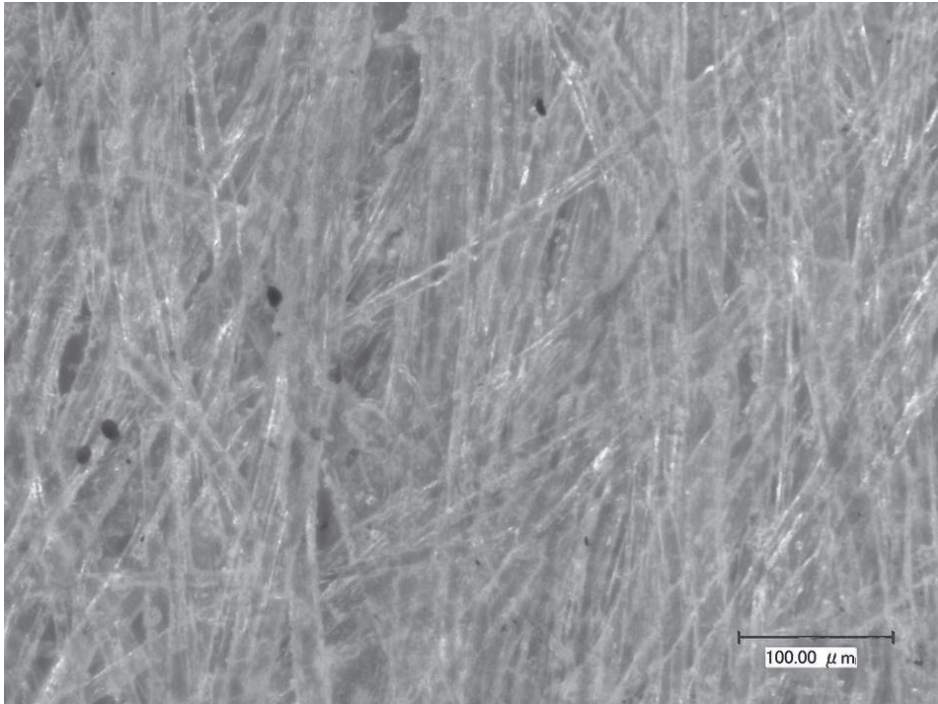
楮紙（亜種 学名ナシ）、流漉。唐写本と日本写本との料紙による区別可能（繊維、技法）。



(画像1) 守屋本『妙法蓮華經』卷三 (675、初唐) × 500。大麻紙。



(画像2) 国宝『毛詩』(初唐) × 100。構(梶)紙、溜漉。



(画像3) 国宝『文選集註』（平安中後期）× 500。楮紙、流漉。

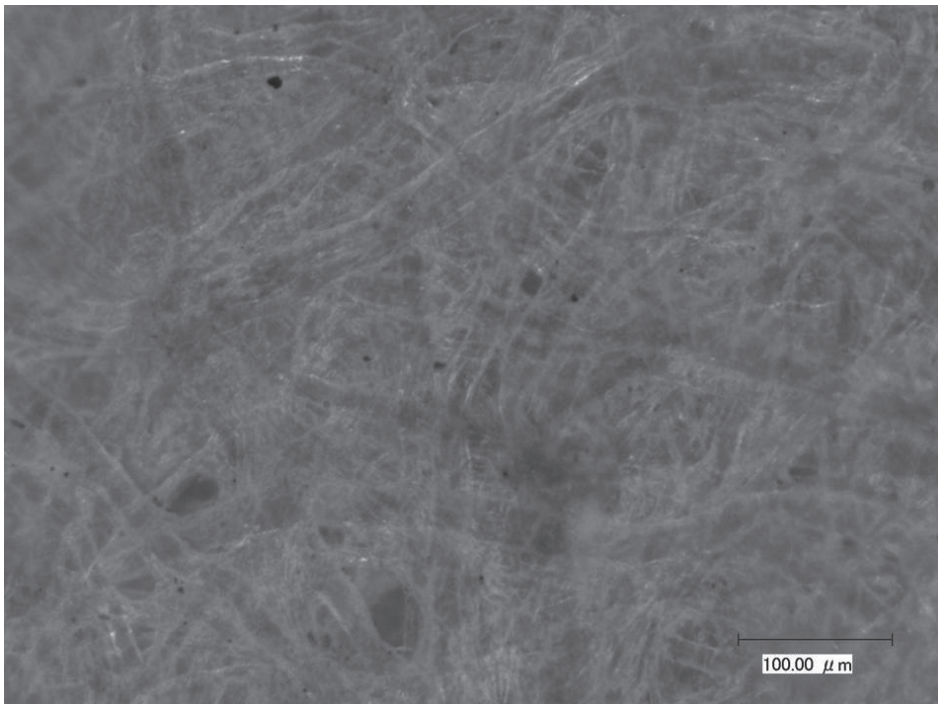
2. 日本奈良時代五月一日経（公的写本）

生漉の大麻紙，聖武天皇・光明皇后書写本は麻紙。

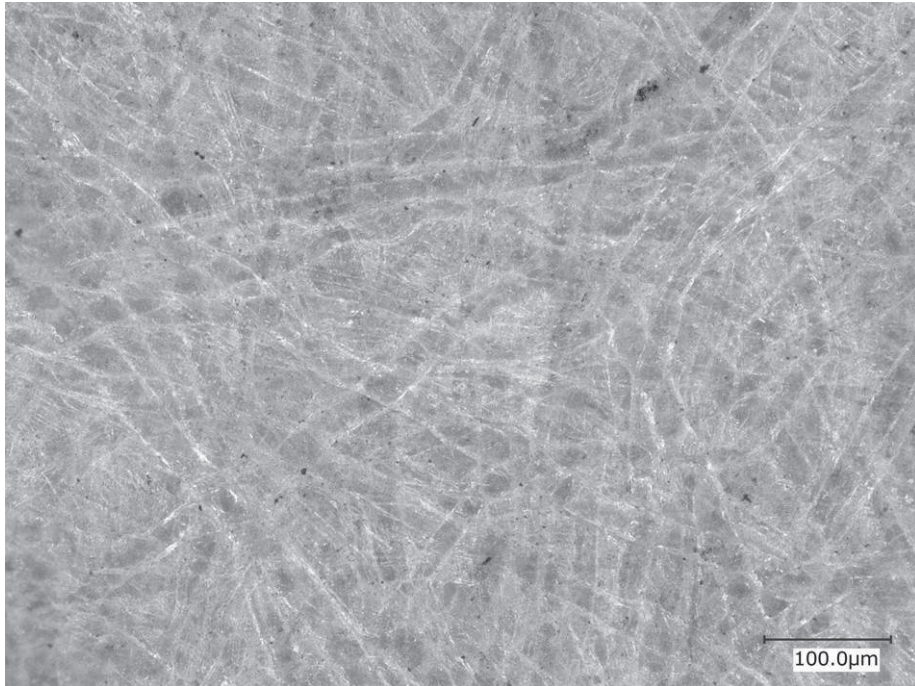
cf. [画像4] 京博蔵重文『続高僧伝』 740 写

cf. [画像5] 高山寺蔵重文『弥勒上生経』（石川年足願経） 738 写

楮紙，奈良時代の普通写本の料紙は楮紙。



(画像4) 重文，守屋本『続高僧伝』（奈良）× 500。大麻紙。

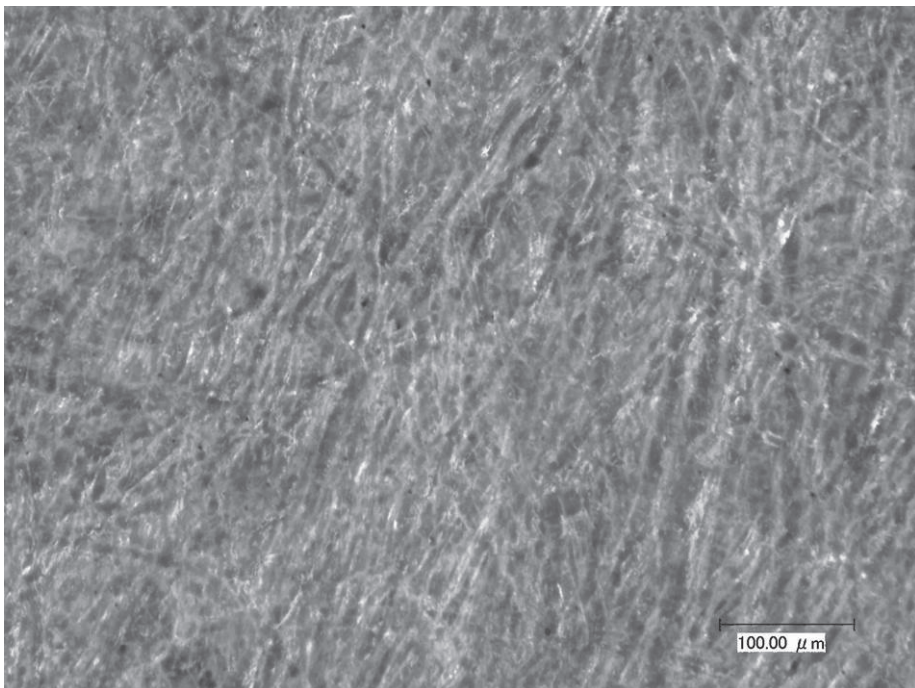


(画像5) 重文, 高山寺本『弥勒上生経』(奈良) × 500。楮紙。

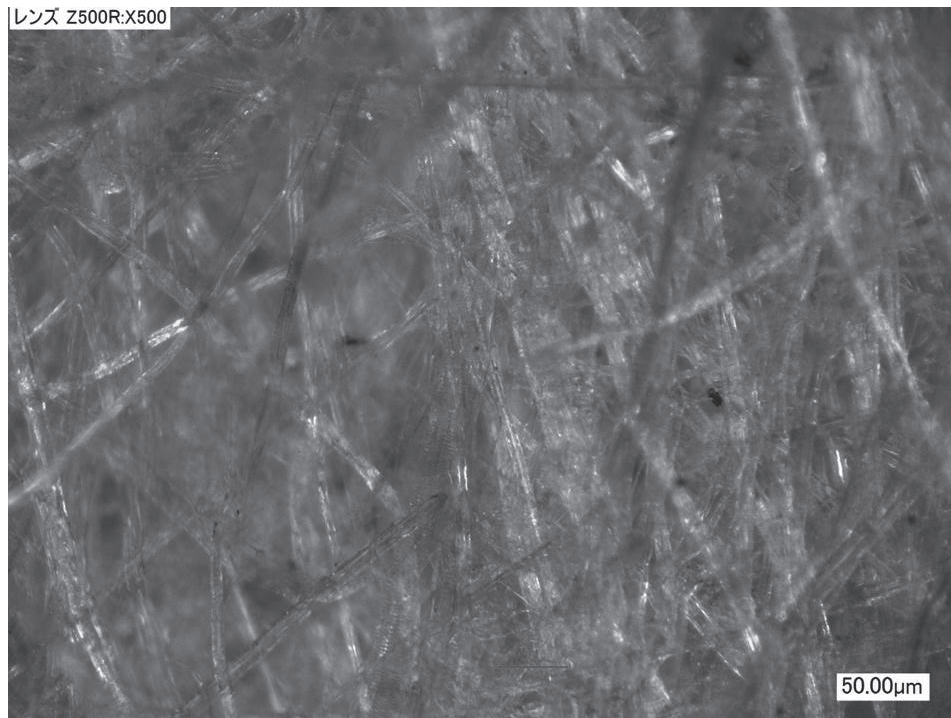
3. 中国宋代の変遷

公的写本用高級紙は麻紙から青檀紙(宣紙)へと変遷。

- cf. [画像6] 京博蔵重文『内典随函音疏 卷三〇七』(金粟山大蔵経) 11世紀写
繊維の構造・樹皮より青檀。
- cf. [画像7] 東洋文庫蔵宋版大蔵経(XI-1-11)後思溪版『阿毘達磨毘婆沙論』卷十四
普通版本の料紙は竹紙。宋版大蔵経は開宝蔵のみ樹皮紙で他は竹紙。



(画像6) 重文, 守屋本『内典随函音疏』(金粟山大蔵経本、北宋、11c) × 450。青檀紙。



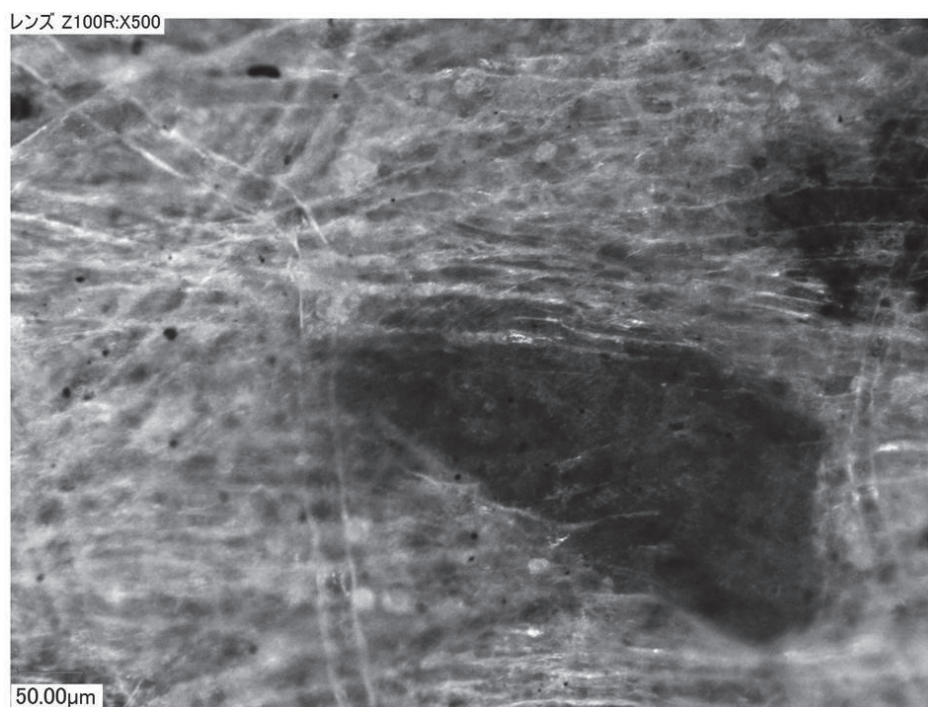
(画像7) 後思溪版『阿毘達磨發智論』(宋版大藏經) × 500。竹紙。

4. 日本平安・鎌倉時代の変遷

公的写本の麻紙の使用は無くなり、貴人御覧用には雁皮紙。

cf. [画像8] 高山寺蔵国宝『篆隸万象名義』

繊維の構造、樹皮より雁皮紙。



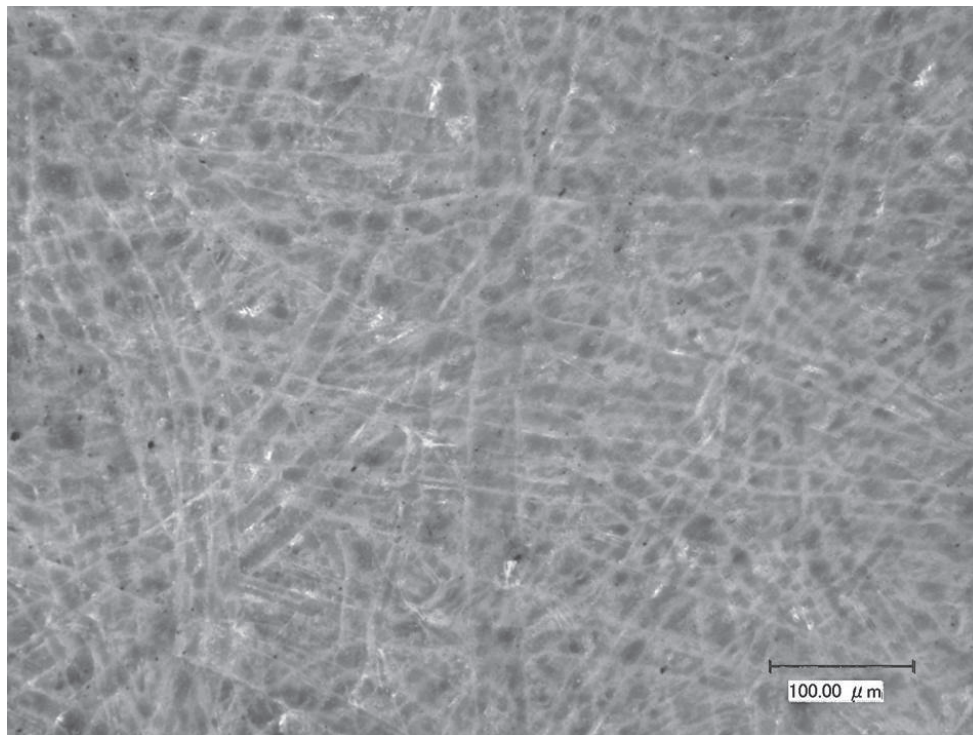
(画像8) 国宝、高山寺本『篆隸万象名義』(12c) × 500。雁皮紙。

cf. [画像9] 京博蔵国宝兼方（吉田）本『日本書紀』

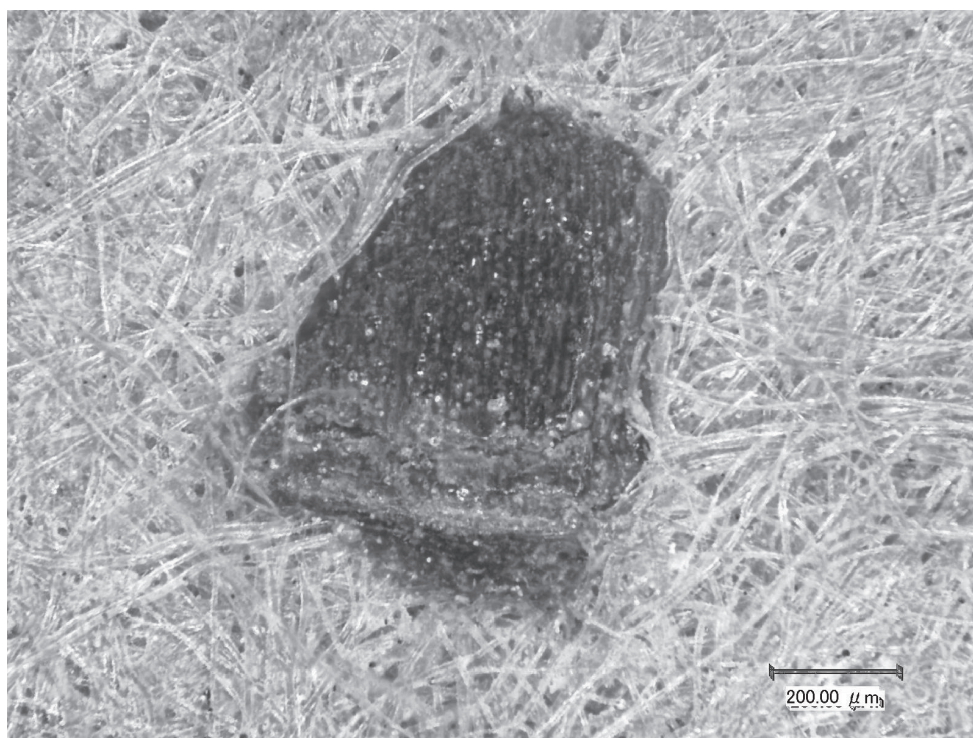
斐紙様に精製された楮紙，日本紀の家の確立を期し貴人への授講も意図，本文の異体（字）率0.55%。

cf. [画像10] 東洋文庫蔵国宝『春秋経伝集解』 1139 清原頼業受庭訓了

青檀（少桑交）紙，明経道家学の確立を期し中国舶来高級紙を使用。



(画像9) 国宝，京博蔵吉田本『日本書紀』（13c）× 450。精製楮紙（斐紙様）。



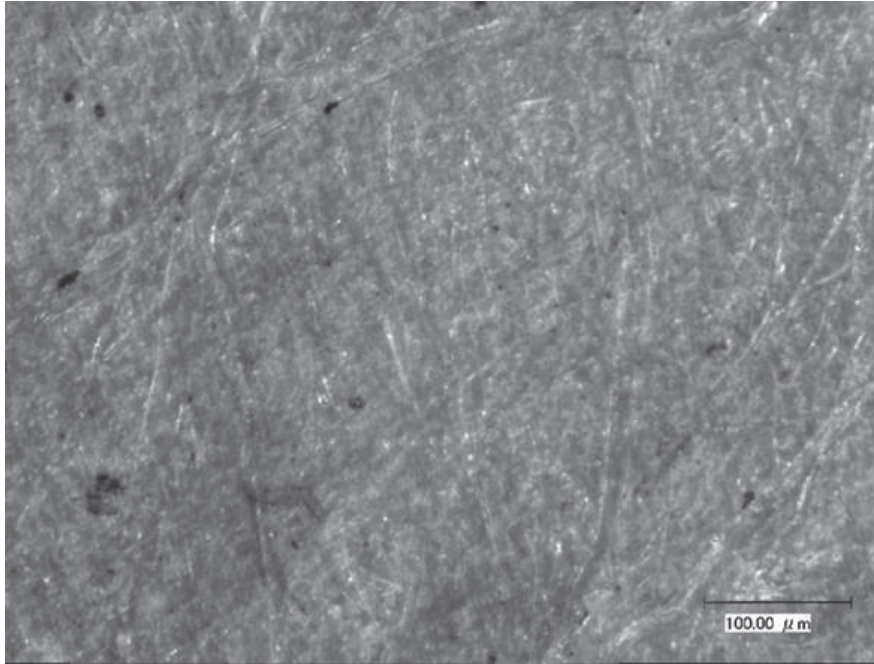
(画像10) 国宝『春秋経伝集解』（1139、受庭訓）× 200。中国青檀紙、溜漉。

5. キリシタン版

ローマ字本は例外なく雁皮紙（最高級版本の位置づけ）、国字本は楮紙。

cf. [画像 11] 東洋文庫蔵重文『ドチリーナ・キリシタン』 1592 刊

雁皮 100% 紙



(画像 11) 重文『ドチリーナ・キリシタン』(1592 刊) × 500。雁皮紙 100%。溜漉。

以上、料紙の質が典籍の位相と深く関わることを示した。

近世東西刊本に使われた用紙の比較研究

江南 和幸

(東洋文庫研究員・龍谷大学名誉教授)

プロローグ

「私はイギリスの哲学者*とともに、三つの発明に注目したい。…私は印刷の技術について、火薬の発見について、および磁針の特性について、語りたいと思う。…磁針はわれわれの船を全く未知の地域に導いた。印刷文字は、あらゆる場所と、未来のあらゆる時代の学者たちの間に、知識の光の通信（コレスポネンス）を確立した。そして火薬は、わが国の国境とわが敵国のそれとを防衛する建造物の、あらゆる傑作を生んだ。これら三つの技術は、地球の表面をほとんど変えてしまったのである」(デイドロ (Diderot, Denis) 『百科全書』 桑原武夫訳編, 岩波文庫, 1971 刊)。

*ベーコン (Francis Bacon), “NOVUM ORGANUM”, 1620 (『ノヴム・オルガヌム』 桂寿一訳, 岩波文庫, 1978 刊)

「人類が足の前に置かれた貴重な発見…砲の火薬や絹糸や航海用磁針や砂糖や紙等々の発見…」, 「印刷術, 火薬および航海用磁針…この三者は世界の事物の様相と状態とを変革した」。